

# 真壁の採掘場を訪れて

⑤

## 時代の先端を歩む！

### 〃 髓栄の石の採掘・有長岡石材店

今回は、真壁小石石に髓栄の石の商標登録を取って、高級ブランド化に力を入れている茨城県真壁町の有長岡石材店を訪れてみた。

現在、代表取締役は長岡茂氏で、創業者は当時権

場を建て、真壁の半蔵産に乗り出したと話す。現在の社長は一代目だが父親が亡くなったあと29歳の若さで石材業を引き継ぎ、持ち前の経営的な発想で採石業の近代化を推進してきた。創業初年を遡ると昨年10月に有長岡社とし、中国に加工場を設けた



長岡 茂社長

権村の議会議員であった父親の長岡源次郎氏。昭和28年に石材業の発展を見越して、地元の高谷と二ツ峯に真壁の産石があることを突き止め、友人所有の共同山10ha余を借り上げて石材採掘業をスタート。12年後に原数の敷地内に石材加工

場を建て、真壁小石に商標登録を取った。時代の先端を歩んでいる。社長の機軸は、はるばる「近代的な機械の導入は真壁でも早いはずじゃなかっただけ」と話すように、原石を運ぶバケット付きフルドーザーも、ワイヤ式の時代に大型の油圧シャベルの機械を導入。開拓者を驚かせ、作業効率の飛躍的な向上に役立っていた。

真壁小石は産石には最速の石で、明治時代から全国に広がり、石塔の飾り非常に美しい。石目も揃っていて近年の風雪に耐えても変色がない。その伝統と歴史

また、昭和63年には、東京電力の厚意で採掘場に動力線が引いてもらい、作業小屋を建てて大口採の切斷機を導入。採石場で採れた原石をその場で規格別に切り、運送作業の省力化に努めていたが、真壁産地では初の試みとして注目されていた。

採掘場の許可面積は、39,940㎡で、産石の石質は真壁小石。採掘法は真壁産地特有の斜掘採掘法が大半で、10人の従業員が大型機械を使って働いている。

真壁小石には最速の石で、明治時代から全国に広がり、石塔の飾り非常に美しい。石目も揃っていて近年の風雪に耐えても変色がない。その伝統と歴史

また、昭和63年には、東京電力の厚意で採掘場に動力線が引いてもらい、作業小屋を建てて大口採の切斷機を導入。採石場で採れた原石をその場で規格別に切り、運送作業の省力化に努めていたが、真壁産地では初の試みとして注目されていた。

採掘場の許可面積は、39,940㎡で、産石の石質は真壁小石。採掘法は真壁産地特有の斜掘採掘法が大半で、10人の従業員が大型機械を使って働いている。

真壁小石には最速の石で、明治時代から全国に広がり、石塔の飾り非常に美しい。石目も揃っていて近年の風雪に耐えても変色がない。その伝統と歴史

また、昭和63年には、東京電力の厚意で採掘場に動力線が引いてもらい、作業小屋を建てて大口採の切斷機を導入。採石場で採れた原石をその場で規格別に切り、運送作業の省力化に努めていたが、真壁産地では初の試みとして注目されていた。

採掘場の許可面積は、39,940㎡で、産石の石質は真壁小石。採掘法は真壁産地特有の斜掘採掘法が大半で、10人の従業員が大型機械を使って働いている。



髓栄の石が産出される真壁石材の採石場。採石場の一角では大口採切斷で小割を。